

空き家を「地域の財産」に 市民有志15人、団体設立

空き家の積極的な活用を推進しようと、秋田市内の有志15人が28日、NPO「住まい安心サポート秋田」を立ち上げた。8月までに法人化した上で、空き家の管理受託や活用策の提案、移住者らの誘致などに取り組み。佐々木義文理事長(64)は「空き家は放っておけば『負の遺産』だが、『地域の財産』にもなり得る。行政依存ではなく住民主導の空き家対策に取り組みたい」と意気込む。

巡回通じ 利活用策提案へ 状況把握

佐々木理事長は昨年まで河「空き家に芸術家を誘致して地
辺雄和商工会の事務局長で、一域活性化を目指すプロジェクトを推進して



いた。退職してからも空き家対策に携わりたいと考
え、IT関連会社社長や郵便局長、司法書士、自治協議会会員など
仲間14人と設

空き家の見守りや管理を行う「住まい安心サポート秋田」の設立
総会

「有酸素運動が効果的」

公開講座 要介ハ獲予方策考へる

地域局保健センター前所長で理学療法士の願法廣典さんは、市民の健康づくりに取り組む市の健康の駅よこて事業

立に向けて準備を進めてきた。

計画では、市民から空き家の相続や税金などに関する相談を無料で受け付け、必要に応じて弁護士や不動産会社を紹介する。また、市民ボランティア約50人を募集し「住まい安心見守り隊」(仮称)を結成。市内を巡回し、空き家の破損の発見や防犯に努める。空き家の所有者にも入会を働き掛け、見守り隊が換気や状況把握を代行する。

空き家の利活用に関して、県外からの移住希望者や事務所を探している起業家などをホームページで募り、所有者との橋渡しをする。このほか、空き家を市民の交流の場や自然体験活動の拠点とするような活用策も提案していく。

秋田市広面の「パソコン専門店COM」内に事務所を開設し、法人化後の8月以降に本格的な活動をスタートさせる予定。現在はホームページ

の作成や関係機関への協力要請などの準備をしている。

この日、同市上北手の遊学舎で開いた設立総会で、佐々木理事長は「空き家は深刻な社会問題。市民の力を結集し、1件でも多くの空き家に明かりをとそつ」とあいさつ。空き地の利活用や、インターネット電話「スカイプ」を利用した高齢者向けのテレビ電話サービスにも取り組む方針であることを説明した。

(那須智子)

第40回
秋田
市民
秋田市
トライ
AKIT
内の民
回「民
田仙北
メンバー
響かせ、
聞き入
県民課



3400株見頃

クリスマスローズ

年より2週間ほど早い今月上旬に咲き始めた。白や黄、赤、ピンクなどの花が斜面を彩っている。大友会長(62)は「キクザキイチリンソウも咲いている。クリスマスローズとの共演」を眺めてほしい」と話した。

友の会は4月11、12日、「ちっちゃな花まつり」を花壇近くで初めて開く。クリスマスローズを販売するほか、鹿角市の園芸研究家が栽培相